

令和4年度都市科学部運営諮問会議 令和4年度に係るコメント集計結果

【1】都市科学部における学生の受入れ

1. 適切に学生受入が実施され、入学定員と実入学者数との関係が適切でしょうか？

段階： 3. 25	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
--------------	-------------------------------------

コメント：

○コロナによる入試対応もしっかりとできており、志願者が受験できる体制が整っている。募集人員に対しての入学者数も適切である。グローバルや多様性の視点の必要性は高まるばかりであり、留学生の定員数はもう少し増やしてもよいのではないか。

○資料5-2について

(1) 建築学科と都市基盤学科の第2希望制廃止 (R6) による志願状況の変化等、影響についてはしっかり分析していく必要があると思います。

(2) R7以降の大学入学共通テストの利用教科・科目について：都市社会共生学科の共通テスト利用が複雑でわかりにくいと感じます。他の3学科と変えた理由や狙いは何でしょうか。高校において、「情報I」は全員が必修で学びますが、都市社会共生学科だけ「情報I」が選択となっている理由が知りたいです。「情報I」の扱いは、高校側の関心が高いです。

○着実に志願者が確保されていると見受けれます。今後、いくつかの入試制度の変更が予定されているとのことですので、さらに合理化されることを期待しております。

【2】都市科学部における教育

1. 都市科学部の特色が反映された教育が行われているでしょうか？

(1) ①グローバルとローカルの接点としての大都市、②リスク共生、③イノベーションを重視した教育が行われているでしょうか。

段階： 3. 25	①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている
--------------	---

コメント：

○必修科目により、貴部の特色が反映された教育を履修できる体制が整っている。内部での履修もそうだが、特にイノベーションなどについては、他大学や企業との連携などを通じて、より深い教育ができるものとする。

○1年次必修科目「都市科学A,B,C」は都市科学部の特色が反映された基盤となる授業であるため、アンケート結果なども十分分析して授業の改善を続けていただきたい。イノベーションに関しては、都市科学C以外では、グローバルとローカル、リスク共生に比較すると取組がやや少ない印象を受けた。

○文理融合、複合的視点を重視した都市科学部の教育は素晴らしいと思います。是非、特色をアピールし続けてほしいです。第5回都市科学シンポジウム「都市を複眼的に思考する」は大変興味深い内容でした。一方で、その良さが、学生にどのように受けとめられているのか、学生への授業アンケートで振り返りや改善を進めてほしいと思います。資料7-2の授業アンケートは、R4の回答率がとても低いので、回答率をあげてほしいです。また、都市科学Aの都市科学部満足度調査の有効調査数が9件/25件というのは何故でしょうか。アンケートに関しては、いつ、何名に対して実施して、何名からの回答があったのかを示してほしいです。回答率をあげた上で、回答結果に対する分析やコメントがあるとありがたいです。

○海外の大学・組織との連携、地域の生活圏との連携が進められており順調と思われます。都市科学ABCの授業アンケートもぜひ継続され、さらなる改善につなげていただければと思います。

(2) 分野横断型の教育が積極的に推進されているでしょうか。

段階： 3. 5	①まったく推進されていない ②不十分である ③推進されている ④非常によく推進されている
-------------	--

コメント：

- 大学としても意欲的に取り組まれているとは思いますが、学生同士のコミュニケーションも図れる形態の授業の拡大が望まれる。
- 都市科学シンポジウム「都市から自然を、自然から都市を考える」は分野横断的で大変魅力ある内容であり、都市科学部の特色がよく反映されていたと思う。また、都市科学部 教育改善に関するアンケート（資料15-3）の設問6「自らの専門分野を客観的にとらえ、応用につなげる幅広い学識」の平均評価が3.31であるのは、分野横断的な教育の成果と考えられる。
- 今後、コロナ関連の制約が外れていく中で、大いに進展することが期待されます。

(3) グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階： 3. 25	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
--------------	--

コメント：

- 海外大学との協定や交流により、グローバル人材育成に取り組まれている。学生時の海外留学は得難い貴重な経験であり、希望する学生がなるべく多く行けるよう、大学としてのサポートをより充実して頂きたい。
- 今年度は海外への派遣や留学生の受け入れなども再開できており、積極的に取り組んでいる。また、今年度からスタートしたユネスコチェアの取組は、自然との共生という課題を通じてグローバル人材の育成にも資すると期待できる。
- コロナも落ち着いていくと思うので、資料7-7のショートビジットや交流を推進してほしいです。
- SVも可能となり、ますます本格化すると思われます。今後も推進していただければと思います。

(4) かながわ・ヨコハマをフィールドとした実践的な教育に積極的に取り組んでいるでしょうか。

段階： 3. 75	①まったく取り組んでいない ②不十分である ③取り組んでいる ④非常によく取り組んでいる
--------------	--

コメント：

- 必要に応じて他大学や行政・企業等と連携し実現性を高めることで、より実践的な教育にして頂きたい。
- 笹山団地における外国籍県民、子供、高齢者との交流事業や、ときわ台マップづくり、羽沢横浜国大駅周辺プロジェクトなどは、地元ヨコハマをフィールドとした実践的な教育として魅力的な内容である。また、丹沢のシカや水源池に関する課題など神奈川県における地域課題についても、数多く取り扱っていただいていた。
- 資料8の実践的な教育は大変素晴らしいと思います。
- 駅周辺や団地との連携プロジェクトなどを実践的に進められていると思います。

(5) フィールドワーク（含むオンライン）を取り入れ、理論と実践の接合をしているでしょうか。

段階： 3. 5	①まったく接合していない ②不十分である ③接合している ④非常によく接合している
-------------	---

コメント：

- フィールドワークを通じて、より実践的な教育ができています。
- 全般的にフィールドワークは豊富であり、理論と実践の接合を図る取組がよく行われている。特に土木に関して、港や橋、海岸などを見学し、実際に道路がどのように物流等に役立っているかなどを現場で学ぶことは、教育上とても重要なよい取組である。
- コロナも落ち着いていくと思うので、フィールドワークや現場見学会を推進してほしいです。
- 多くの現場見学会やフィールドワークなどを実施されておられます。本学部の本領が発揮される部分と思われるので、今後もさらなる接合の進展を期待いたします。

【3】その他

1. 教育課程に対応した設備・施設等が十分整備され適切でしょうか？

段階： 3. 2 5	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
---------------	-------------------------------------

コメント：

- オンライン授業体制や消毒・飛沫防止措置等ウイルス対策から、障害者にも対応した設備・施設改修等が行われており、良く整備されている。
- 新築の都市科学部講義棟は開放的で都市科学部にふさわしい教育施設であると感じた。
- エントランスやスイッチャーの整備など、着実に進められておられるように思います。

2. 財務基盤は適切でしょうか、また、管理運営体制（事務組織も含む）が適切に整備されているでしょうか？

段階： 3	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
----------	-------------------------------------

コメント：

- 会議でも光熱費の上昇が話題になりました。今後の工夫や対応が望まれるところと思います。

3. 外部評価の体制が整備され、機能しているでしょうか？

段階： 3. 2 5	①まったく機能していない ②不十分である ③機能している ④非常によく機能している
---------------	---

コメント：

- 資料15-3の学生アンケートの回答率をあげてほしいです。その上で、学科ごとでも結果を集計し、それぞれの学科の分析をしてみるとよいのではないのでしょうか。また、設問内容についても必要な検討、改良をして、経年変化を見てほしいです。
- 本諮問会議の運営にも教職員の皆様が真摯に向き合っていただけていると感じます。都市基盤学科でJABEE認証が継続されていることも、将来の土木技術者を目指す学生や留学生にとってはありがたい状況です。

4. 新型コロナウイルス状況への対応は適切に行われているでしょうか？

段階： 3	①まったく適切でない ②不十分である ③適切である ④非常に適切である
----------	-------------------------------------

コメント：

- オンライン体制やウイルス対策備品の設置等、適切に行われている。また、入試についても志願者数が戻ってきていることから、対策も適切に行われていると見える。
- コロナ禍が若い人たちに与えた影響は相当大きいと考えられるため、不安を抱えている学生がいつでも安心して大学に相談できるような体制をお願いしたい。
- ごくわずかですが、高校において、コロナ後遺症で苦しんでいる生徒がいます。もしも、そのような学生がいたとしたら、適切な配慮や対応をしてあげてほしいです。R5はオープンキャンパスを、より積極的に実施してください。
- 遠隔での実施希望を受け付けるなど、適切に行われているように見受けられます。

5. ダイバーシティに配慮した取り組みを行っているでしょうか？

段階：

3. 25

①まったく行われていない ②不十分である ③行われている ④非常によく行われている

コメント：

- 性別、国籍などを問わない体制づくりになっている。
- ジェンダー共生の科目の実践など、全体的に配慮した取り組みが進められているように思います。

全体を通して、ご意見・ご提言がございましたら、ご記入をお願い致します。

- 新型コロナウイルス感染症は比較的落ち着きを見せ始めておりますが、貴学をはじめとする学校関係の運営については、大変ご苦労されていると感じております。引き続き、学生にはより多くの教育機会を作って頂ければと思いますので、学生と繋がり・メンタルケアも含めご対応をお願いしたい次第です。
貴校に入学を志願される学生に対しては、「都市科学部」で学べることのイメージを、しっかり分かりやすく打ち出していくことが大切だと考えます。発信方法やタッチポイントなどについてもご検討頂ければと思います。
- 都市科学部 教育改善に関するアンケート（資料15-3）は非常に重要だと思う。具体的には、本コメントシートの【2】で取り上げてある都市科学部で目指している教育（グローバルとローカル、イノベーション、分野横断的、グローバル人材等）の成果を確認できるような分かりやすい設問を、数を絞って実施されたらよいのではないかと。また、都市科学部の先生方でよく議論したうえで、設問を最終的に決定するのが望ましいと思う。例えば、都市科学部が目指す「グローバル人材」は、設問10「適切な言語やメディア等を駆使し、グローバルに発信する能力」を持つ人材、とは少し異なるのではと感じた。もちろん、英語（外国語）の能力が伸びたかどうかを確認できる設問は別に必要だと思うが、都市科学部が目指す「グローバル人材」とは、グローバルスタディーズ（資料7-6）のアンケートの質問E「自分とは異なる信仰や文化的背景を持っている人を理解し、受け入れることができる」人材に近いのではないかとと思うので、設問は十分に検討したうえで確定した方がよいと思う。
- 都市科学部は、とても良い取組を実践していると思うので、なおさら、学生の評価や受けとめを確認して、より改善してもらいたいと考えます。資料15-3の学生アンケートについては、4年次後半での実施時期を工夫して、100%回答を目指してもらいたいです。
- 動画による発信は大切だと思います。実際の学生の声や学生の活動も紹介してください。
- チャットポッドの運用実績や効果は興味があります。
- 会議資料15-3「都市科学部 教育改善に関するアンケート」は今後も継続していただき、回答数もぜひ伸ばしていただければと思います。なお、同アンケート上で「卒業後も連絡が取れるメールアドレス」の記載を求めているのは、素晴らしいアイデアだと思いました。